

広報なみえ 700号の歴史

61年にわたり、その時々を記録してきた広報なみえ。昭和38年5月1日に「なみえ町政だより」として第1号を創刊してから、今月号で創刊700号を迎えました。

時代の移り変わりとともに広報なみえも変化し続けてきましたが、これまでやってこれたのは、町民の皆さんのご理解とご協力があったからこそです。

700号を記念して、創刊までさかのぼり、これまでの歩みを振り返りましょう。



平成11年
2月1日発行
人口 22,890人
世帯 7,070戸 **第400号**

うつくしま未来博の開催の案内などの内容が掲載されています。



平成28年
1月1日発行
人口 18,812人
世帯 7,064戸 **第600号**

東日本大震災と原発事故による避難から、5回目のお正月を迎えるときに発行されました。町からのお知らせのほか、町民の皆さんの避難状況や復興支援員の活動状況、各仮設住宅団地で行われる交流会の様子などが掲載されています。



平成19年
6月1日発行
人口 21,212人
世帯 7,104戸 **第500号**

とびきりの一瞬を切り取った縦表紙から始まり、町づくりに関わる町民さんを紹介する「広報サロン」や水道週間の案内、高瀬川のアユ漁の解禁などが掲載されています。



第1号
昭和38年
3月31日時点
人口 24,441人
世帯 4,680戸

広報なみえは、昭和38年5月1日に、B5版ガリ版刷り6ページで創刊されました。

当時の名称は、「なみえ町政だより」で、おもに37年度の財政状況をお知らせするためのものでした。興味深い記事としては、「農繁期季節保育所の開設」とあり、時代を感じるすることができます。

昭和42年1月1日発行の第9号からは、B4判活版印刷となり毎月発行されるようになりました。昭和48年3月の第89号からは平版印刷となり、現在と同じ印刷方法となりました。

広報紙のバックナンバー

平成23年7月号より町ホームページで広報紙のデータを公開しています。

町民の方々と町とを結ぶ「広報なみえ」が、創刊700号を迎えました。これまで61年にわたる町民の皆さまからのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

広報なみえには、様々な町の歴史が刻まれています。町の魅力、伝統芸能、町民活動、喜び、悲しみなど、長年にわたりその時代にあわせた情報発信の手段として、住民の絆を深めてきました。そして震災後は、ふるさとを離れて暮らす方々に、町の復興の様子を伝え、町と皆さまをつなぐ架け橋として、浪江の今をお伝えするという重要な役割を果たしています。

町はいま、着実に復興を進めています。これからも関係者一同、ふるさとの復興の様子を皆さまにお伝えするため、また、地域の発展と交流を支える一助となるため広報なみえの更なる充実を目指し、努力してまいります。これからも皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和6年5月

広報なみえ「700号」の発刊にあたり



浪江町長
吉田 栄光



第200号
昭和57年
7月1日発行
人口 22,993人
世帯 6,174戸

表紙は上ノ原保育所の「お客さんごっこ」です。年長児が年少児をお客さまとして招待し、会食の様子を伝えています。この時の年長児はあと数年で50歳。記憶に残っている人がいるのではないでしょうか。



第100号
昭和40年
3月1日発行
人口 21,202人
世帯 5,182戸

「ちり紙・トイレットペーパーが標準価格以下で販売に」という見出しがありました。オイルショックに伴い物価が高騰した時期でした。

記事では、エネルギーの節約を訴えています。今と同じですね。



第300号
平成2年
10月1日発行
人口 23,634人
世帯 6,467戸

年号が平成と変わり、広報の印刷の感じや、レイアウトなどが変化しました。

記事の内容としては、300号の特集として10ページ掲載していました。また、公共下水道が整備され始めたのがこのころでした。

